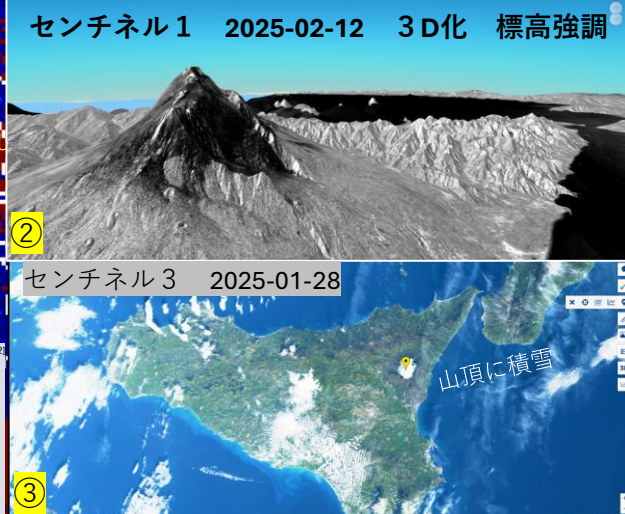
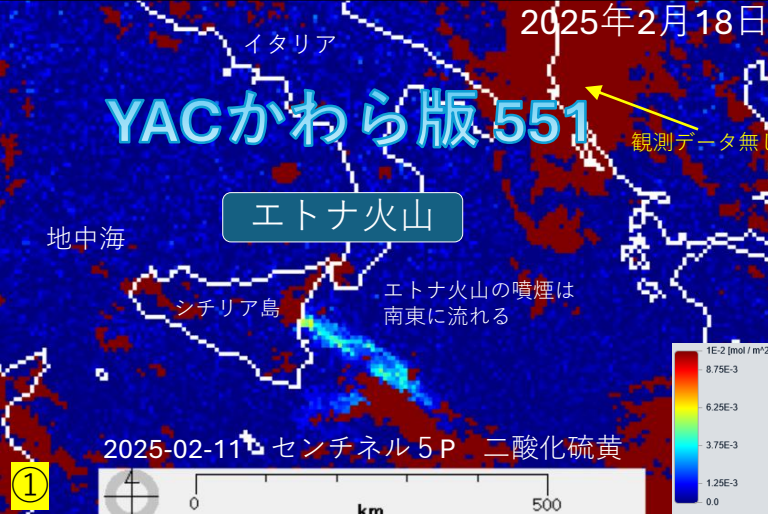




イタリア国立地球物理学火山学研究所 (INGV) によれば、2月6日にエトナ山で、新たな噴火が始まりました。爆発的なストロンボリ式噴火は、南東火口の西で始まりました。2月8日、標高約 3,050 メートルの新ボッカ火口の基部に亀裂（きれつ）が入り、南西に溶岩流が発生しました。④⑤

2月10日センチネル 2 がエトナ火山周辺を観測しました。トゥルーカラー画像でははっきりしません。⑥

レイヤーを変えて多くの情報を探してみましょう。



Default既定値→Volcanoes火山

→False color (urban (フォルスカラーアーバン) ⑥-2

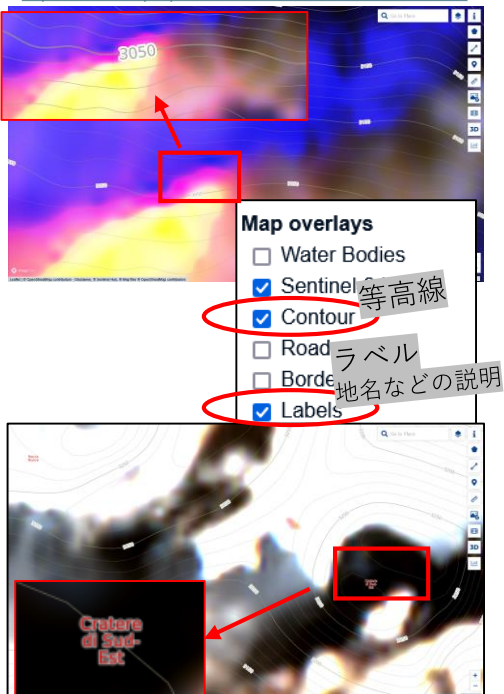
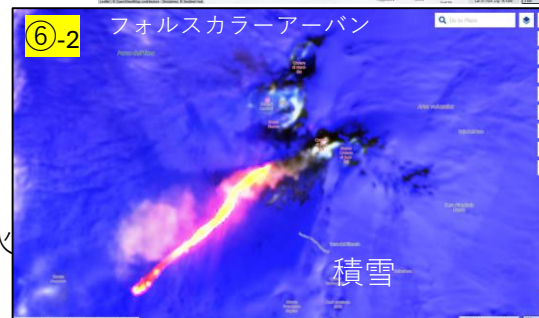
True Color + IR highlights (トゥルーカラー赤外強調) ⑥-3

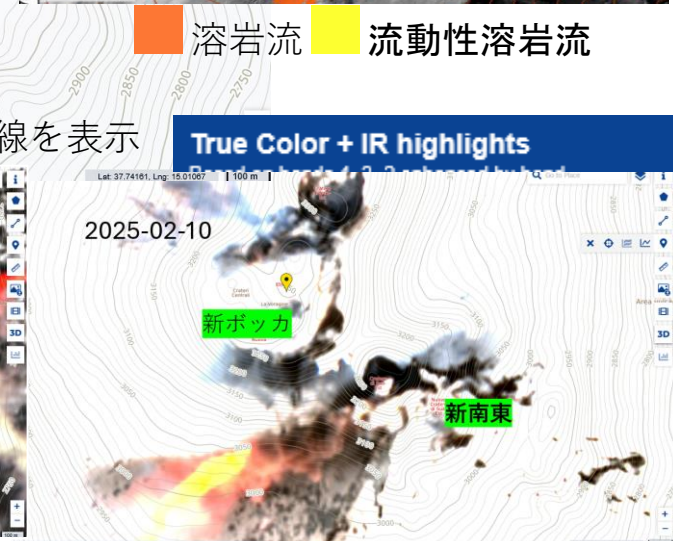
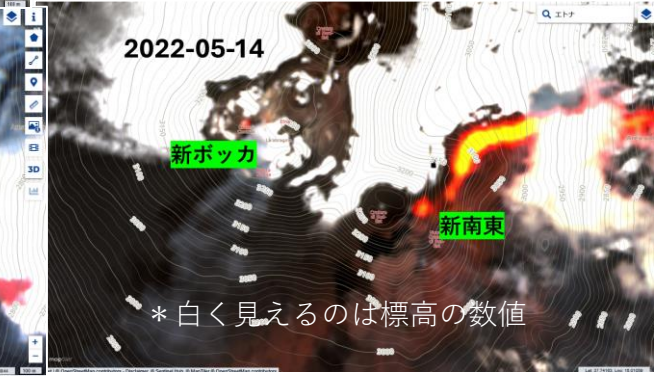
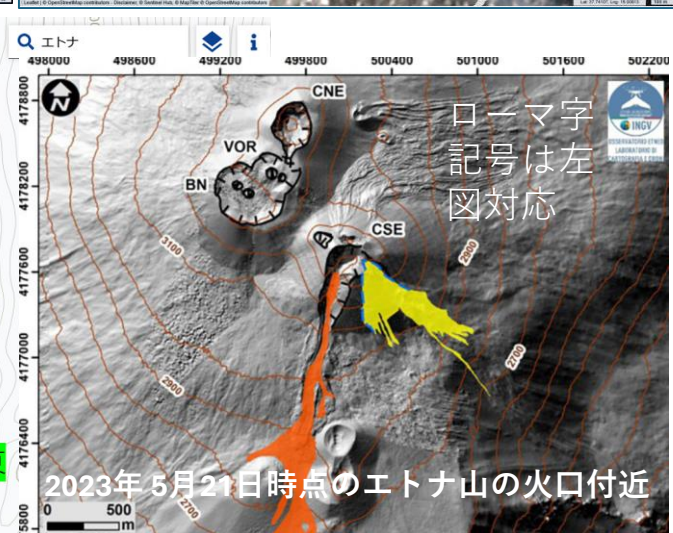
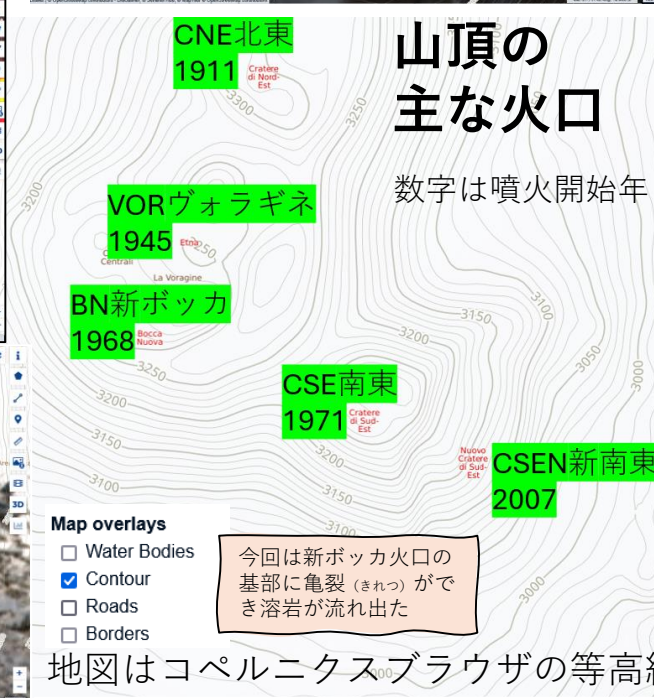
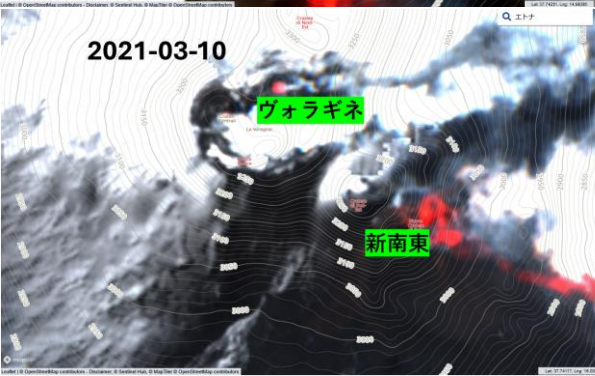
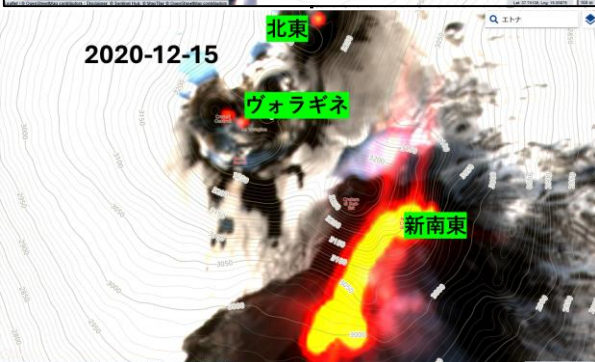
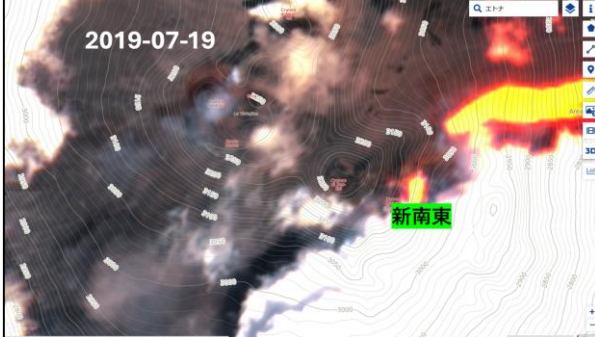
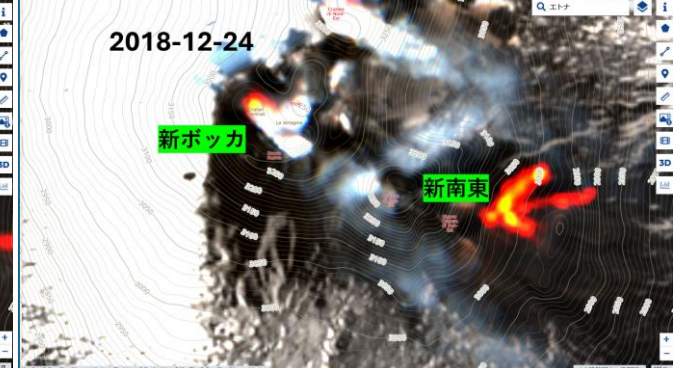
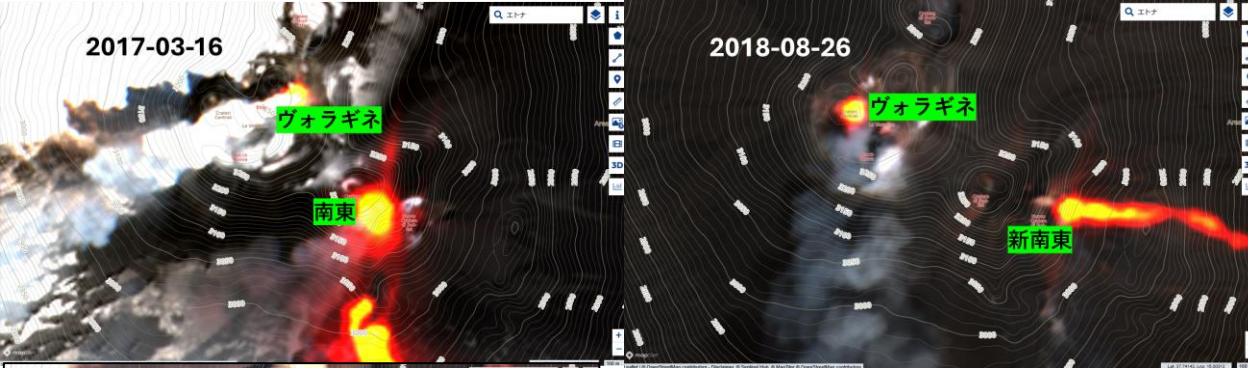
2つのレイヤーで溶岩流を明示することができます。

エトナは山頂の5つの火口が有名ですが、2017年からの噴火した火口を調べてみました。今回の噴火の溶岩流と同じように2019年7月19日の画像では火口からでなく、中腹から溶岩流が流れています。*次ページ参照

コペルニクスブラウザでもEOブラウザと同じように、等高線を表示することができます。ラベルも表示できます。溶岩流が、「標高約 3,050 メートル...」ということも確認できます。

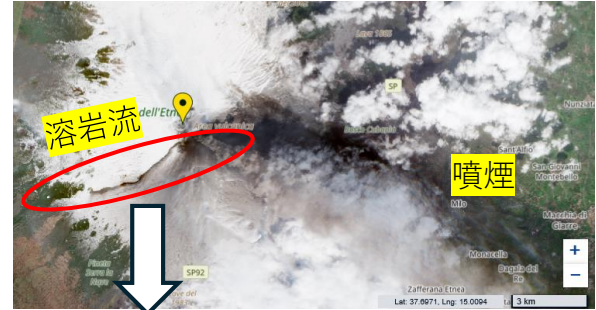
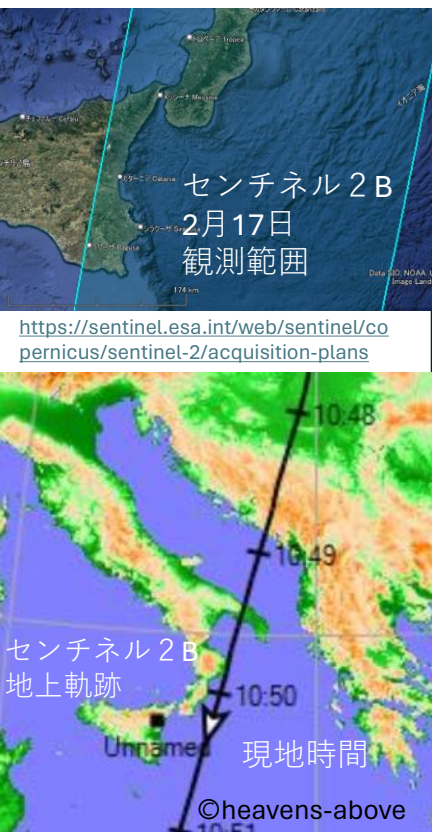
コペルニクスブラウザのレイヤーを活用したり、観測日を操作することによって、衛星データ一層身近にすることができます。



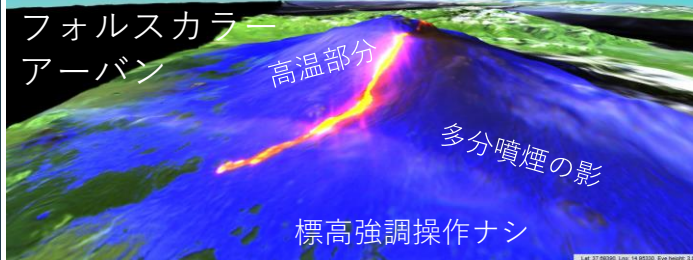
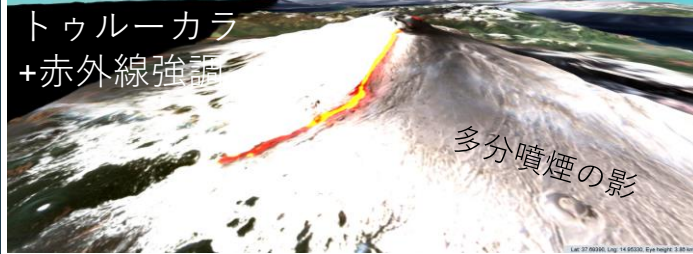
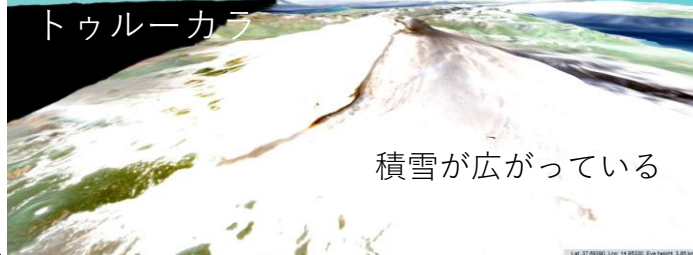


2月17日の観測データ

溶岩流と噴煙を探る



センチネル 2 の観測データ → 3D



標高3050m～1900mまで約4kmの溶岩流とはるかアフリカ大陸まで約1200kmも二酸化硫黄が広がっています。

